

主張の応酬 いずれも多数の例の一部

- ウクライナ戦争
 - ロシアに対する批判
 - ◇ [S/PV.9126](#), p. 26 (Latvia, “not a coincidence or collateral damage”)
 - ロシアの反論
 - ◇ [外務大臣インタビュー2022年3月3日](#) (“polina”でページ内検索)
 - ◇ [S/PV.9600](#), p. 14.
 - ウクライナに対する批判 [S/PV.9524](#)
 - ◇ ロシアによる批判 p. 2, pp. 10-11.
 - ◇ 各国による反論 仏、英、日、米、スイス、ウクライナの発言を比較
- ガザ
 - 被害状況に関する両当事者の認識 [CBS, 14 May 2024](#)
 - イスラエルの説明
 - ◇ 作戦行動全体について [S/PV. 9540](#), pp. 20-22.
 - ◇ [2024 年 5 月 26 日の避難民キャンプ攻撃](#)
 - [国連事務総長報道官声明](#)
 - [イスラエル首相声明](#) “Tragically, [...] an incident occurred”
 - ハマスの説明 [Our Narrative... Operation Al-Aqsa Flood](#), p. 7.

法的分析

- 出発点 [第一追加議定書](#) (API) 51 条 2 項・52 条 1 項
- しかし、全ての攻撃が違法であるわけではない
 - “incidental”である場合は、“excessive”であれば違法 (51 条 5 項(b))
 - ◇ “incidental”かどうかはどうやって判断する？
 - *Prosecutor v. Gotovina*, Judgment of the Trial Chamber¹
 - ◆ パラ 1898 証言を基に、末尾の文に示される前提を設定
 - ◆ パラ 1919-1923 裁判所がどのようにして“an unlawful attack

¹ [旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所](#) (現在は残余メカニズムに引き継がれている) の判決。この長文の判決は PDF ファイルが [vol. I](#) と [vol. II](#) とに分けられて掲載されており、講義で用いる部分は vol. II に載っている。今回の講義の限りでは事案全体を理解する必要はなく、上に示したパラグラフのみを読めば足りる。なお、判決の該当部分は戦争犯罪ではなく人道に対する罪についての議論だが、今回の講義で扱う問題を考える上で大いに参考になる。この点は講義で説明する。

on civilians and civilian objects”という結論に至ったか、考える。

■ [*Prosecutor v. Gotovina, Judgment of the Appeals Chamber*](#)

◆ パラ 58, 61, 83 第一審判決批判²

◇ “excessive”かどうかはどうやって判断する？

■ [*Prosecutor v. Galić, Judgment of the Trial Chamber*](#),³ paras. 372-373, 386-387

➤ “excessive”となることを知りつつ (in the knowledge / en sachant)、故意に (wilfully / intentionnellement) 行えば「重大な違反 (grave breach / infraction grave)」(85 条 3 項)

◇ 85 条 1 項

→1949 年ジュネーヴ諸条約の関連規定 例、[第四条約](#) (GCIV) 146 条

◇ [国際刑事裁判所規程](#) 8 条 2 項(b)(i), (ii)、同項(e)(i), (ii)

➤ では、“incidental”であり、かつ“excessive”でない場合は？

● “excessive”にならないようにするために執るべき措置 (57 条)

➤ 57 条 2 項(a) [米國務省報道官 2024 年 5 月 28 日記者会見](#) “procedures [...] that they need to put in place to prevent it from happening again”

➤ 57 条 2 項(b) [日本外務大臣 2024 年 5 月 28 日記者会見](#)

応用問題：「人間の盾」

● ウクライナ ロシアによる批判 [S/PV.8980](#), p. 7.

● ガザ 国連事務総長 2023 年 12 月 8 日安保理での発言 [S/PV.9498](#), pp. 3-4.

➤ いかなる意味において“in contravention of the laws of war”なのか

➤ “does not absolve Israel of its own violations”なのはなぜか。また、一般論として、ある軍事目標に「人間の盾」が置かれている場合、当該軍事目標に対する攻撃は常に違法となるのか。

² 上訴審判決に対しては批判が強い。Janine Natalya Clark, [“Courting Controversy: The ICTY’s Acquittal of Croatian General s Gotovina and Markač”](#), *Journal of International Criminal Justice*, vol. 11, 2013, p. 399; Darren Vallentgoed, [“The Last Round? A Post-Gotovina Reassessment of the Legality of Using Artillery Against Build-up Areas”](#), *Journal of Conflict & Security Law*, vol. 18, 2013, p. 25.

³ 上訴審 ([Prosecutor v. Galić, Judgment of the Appeals Chamber](#)) では被告人はもっぱら証拠の扱いについて不服を述べており、excessive の判断については特段議論されていない (上訴審判決パラ 255 以下)。講義では第一審 (the Trial Chamber) 判決のみを扱う。この事件についても、上記パラグラフのみ読めば足りる。

- 関連規定
 - GCIV 28 条、API 51 条 7 項・8 項、ICC 規程 8 条 2 項(b)(xxiii)
 - 非国際武力紛争の場合 [ICRC 慣習法](#) Rule 97

以上